報告書

JSEKM「第 11 回全国大会報告」
主催：日本電子キーボード音楽学会 第 11 回全国大会組織委員
とき：2015 年 11 月 15 日（日）　10 時半～18 時
ところ：東京学芸大学（東京都小金井市）

プログラム

あいさつ
増田金吾／東京学芸大学副学長
出田敬三／日本電子キーボード音楽学会代表幹事、平成音楽大学学長

基調講演
ドイツ語圏のピアノ教育におけるテクノロジーの活用
ロルフ・プラッゲ／ピアニスト、ザルツブルグ・モーツァルテウム大学教授

総　会
1.開会の辞　2.議長選出　3.報告　4.協議　5.閉会の辞

昼食（ポスターセッション、ランチタイムテーブル

パネルディスカッション
電子オルガンによる音楽の追求 ～生演奏楽器としての立脚点～／柴田 薫、金銅英二（司会）　森松慶子（書記）
パネリスト／市川侑乃、森田知恵、曾 夢、古田政伸

電子キーボードアンサンブルにおける現状と今後の方向性／田中功一、小倉隆一郎（司会）　脇山 純（書記）
パネリスト／初山正博、西山博子、マーク・マンノ、ハン・ヨンヒ　話題提供／中地雅之

ラウンドテーブル
タテ線メソッドとは何か① ～さまざまな視点からメソッドを考える～／阿方 俊（司会）　小澤真弓（書記）
話題提供／原岡和生、和智正忠、齋藤康之、友永和恵、秋谷万里子、垣浪文美香 他

研究発表
① 曾 夢：中国電子オルガン界の現状
② 上出美希：グラフィックを用いた音楽の創作実践～タブレット端末の効果的な活用を目指して～
③ 齋藤康之：タテ線譜による若年層のピアノ演奏～ピアノ演奏への心理的距離の短縮～
④ 市川侑乃：エレクトーンのために書かれたオリジナル作品の芸術的意義
⑤ 赤津裕子：M.L.システムを活用した初心者ピアノ指導における成果と課題
⑥ 阿方 俊、友永和恵：タテ線譜メソッド経過発表②
⑦中村真貴、西林博子：平成音楽大学とハイブリッド・オーケストラ
⑧マーク・マンノ、ハン・ヒョンヒ：アメリカの鍵盤教材、韓国のM.L.教育とコンサート
⑨和智正忠：電子キーボードによる音楽活動と健康増進に関する一考察

研究コンサート
一段電子キーボードによるハイブリッド・オーケストラの可能性

和泉宏隆：宝島
A.シルヴェストリ：Back to the Future
J.S.バッハ：チェンバロ協奏曲第１番第１楽章
チャイコフスキー：バレエ組曲「くるみ割り人形」より
W.A.モーツァルト：３台のピアノのための協奏曲「ロドロン」

出演：ロルフ・プラッゲ、高澤ひろみ、椎野伸一、東京学芸大学学生・大学院生

挨拶

増田金吾（東京学芸大学副学長）

日本電子キーボード学会全国大会開催にご参加の皆様、そして遠路はるばる、ザルツブルグ、ソウル、台湾、上海と、海外からお見え下さった先生がたを心から歓迎する。

貴学会が今回第 11 回目を数える全国大会開催を迎えられた事に、心からお祝い申し上げる。貴学会の目的は、電子キーボードを通しての理論、表現、教育、学際的な発展に寄与することであると伺った。

基調講演、パネルディスカッション、研究発表、ラウンドテーブル、ポスターセッション、研究コンサート等盛りだくさんの充実した内容を拝見すると、世界の音楽文化の発展に大きく貢献されることは、確かである。数値をもとにした成果のみを問われがちな昨今、こういう地に足のついた形で発展に寄与することは、尊いことと思われる。

本学は日本最大規模の教員養成系大学で、教育学部のなかに、教員養成課程と並んで設置された４つの学系（総合教育科学系、人文社会科学系、自然科学系、芸術・スポーツ科学系）は、それぞれさらに４つずつの専門講座に分かれており、いわば他大学の学部に相当している。本学には、24 台の電子キーボードを備えた ML 教室が２つあり、盛んに電子キーボードを用いた授業が行われ、音楽教育学や、音楽学の教員と学生が関わっている。研究コンサートでも、１段電子キーボードを含む編成のオーケストラによる演奏をお聴きいただくことになっている。この全国大会が、充実した稔り多いものとなることを祈念して、本日の挨拶とする。

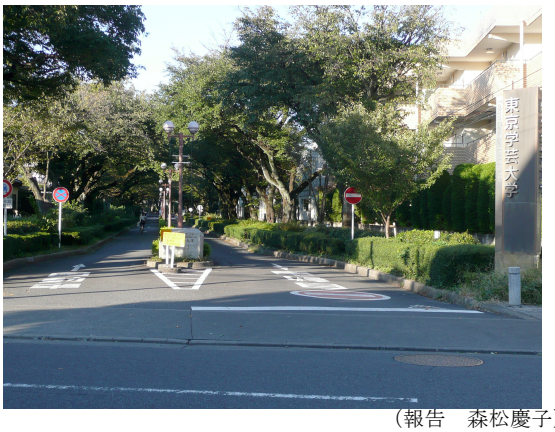
出田敬三（日本電子キーボード音楽学会代表幹事）

東京学芸大学には2007年と2011年に続いて三たびお世話になることになり、厚く御礼申し上げる。

今回の全国大会の特徴は、国際的な情報交換である。海外４カ国の先生がたがおみえで、昨日プレミーティングを開催した。ピアニストとしてご活躍の、オーストリアのロルフ・プラッゲ先生には基調講演、パネルディスカッションに加えて研究コンサートで演奏も御披露頂ける。アメリカご出身のマークマルノ先生は、台湾東海大学で 30 年間中国語で教鞭をとられ、ポスターセッション、パネルディスカッション、また研究発表ではアメリカのグループレッスンについて伺う。ソウル教育大学のハン・ヨンヒ先生はピアノと ML 担当で電子ピアノオーケストラを結成、10 数年にわたるコンサート活動をなさっている。ポスターセッション、パネルディスカッションで電子ピアノアンサンブルについてご発表下さる。上海音楽院の曾夢先生は中国を代表する電子オルガン奏者で、教育面でもコンクールで多くの成果を上げておられる。パネルディスカッションや研究発表で、中国電子オルガン界の情報を話して頂ける。通訳の諸先生がたも宜しくお願い致します。

今年度学会誌は第 10 巻を発行、国立国会図書館にオンライン ISSN を申請し、国立国会図書館を通して論文の閲覧ができるようになる。

最新のハイテクノロジーは身近で電子楽器を使用した音楽も世界に溢れているが、音楽教育やクラシック音楽の分野ではテクノロジーが有効に用いられているとは言い難い。本日が多くの発見と、出会い、感動に満ちた素晴らしい１日となることを祈っている。



（報告　森松慶子）

総会

1．開会の辞：中地大会実行委員長より出席者と委任状の合計が規定数に達している旨の報告。

2．議長選出：出田幹事代表を選出。

最初に８月に急逝した生頼俊秀氏に黙祷。

3．報告：阿方事務局長

1）2014年度下半期-2015年度上半期活動報告

・幹事会５回開催

・ワークショップ　2/1　熊本(平成音大)

・海外情報交流会　11/14、学芸大。日本、オーストリア、中国、韓国、台湾

・会員情報のメール配信　今後も演奏会、作品発表、その他幅広く発信したい。会員情報「フォーム」を請求して情報を送っていただきたい。

2）2015年度上半期会計報告・同監査報告

（古田監査委員）

学会の実務関係を担っていた生頼氏の急逝により、完全な会計報告資料を整えるに至らず、応急処置として、通帳等現存資料による会計報告及び監査。異例ではあるが、確認可能な範囲内では問題なく処理されており、未処理分は後日郵送および会員情報で各会員に報告するということで承認。

3）その他、今後の活動について

・12／26に次回幹事会を予定。

・ワークショップをより小回りの良いスタイルにして活性化を図りたい

・全国大会のポスターセッションを今後も新しい人、若い人の発表枠としたい

・全国大会ではパネルディスカッションに加えてラウンドテーブルなど、電子オルガンとML以外に音楽教育、学校教育に関する分野を取り上げる場も持つようにしたい。

・会員へのお知らせは月に２度を目安にメール配信を行っているが手薄になる月もあり、より充実を図りたい。事務局アシスタントを募集したい。

4）J-STAGEについて

J-STAGE とは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）。総合学術電子ジャーナルサイトとして、国内で発行された学術論文全文を読むことのできる、日本最大の総合電子ジャーナルプラットフォーム。

以下、田中幹事より本学会の今までの概要説明。

・J-STAGE への学会誌「電子キーボード音楽研究」の申請が 11 月に採択された。

・インターネット版 ISSN を取得。Online edition: ISSN 2189-9193

・プリント ISSN（冊子版）は、Vol.1～10 を国会図書館へ納付後に発給される。

・すべての号の Web 掲載については、次の２つのルールが示されている。

①オンライン版は原則を削除せずに公開し続けること。

②一覧できる頁にタイトルと ISSN を表示し、URL を国会図書館へ伝えること

・本学会としては、ホームページに最近のものから可能な範囲で順次アップしていきたい。

4．その他

1）第 12 回全国大会

・都内の大学と交渉中。近日中に発表予定

2）新会員募集

・金銅幹事より「現在の会員数は 105 名であるが、今後の学会発展のためにより多くの仲間が必要である。まずは身近な人たちに学会活動の魅力を説明し、入会を勧めていただきたい」との発言があった。

5．閉会の辞：出田幹事代表

（報告：森松慶子）

会場風景：幹事（上）と参加者（下）